



門へ速¹³
 號 801
 卷 2

明治三十六年十月十三日
 坪内雄祐
 氏寄贈

滑稽二日酔下編

元日之部

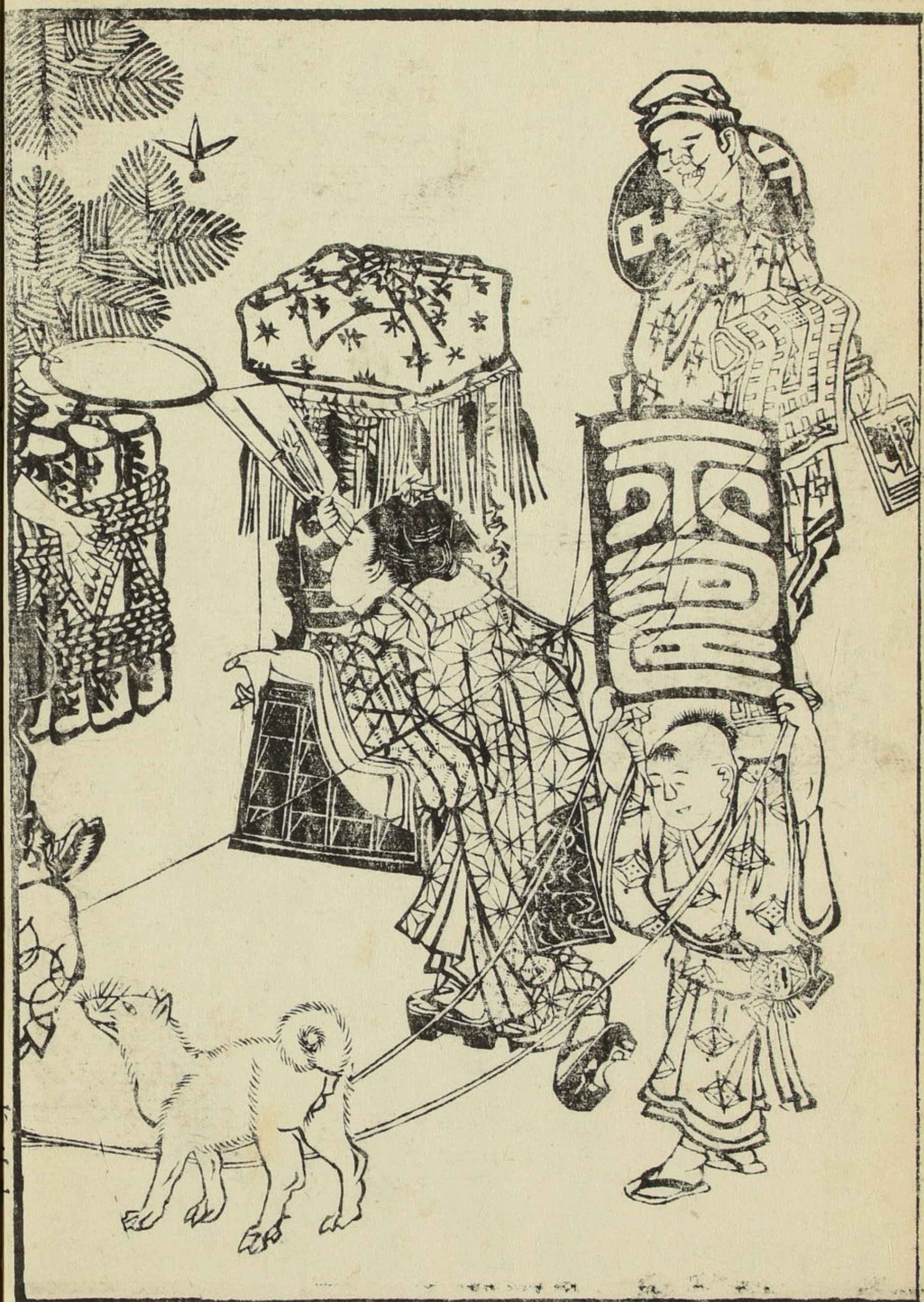
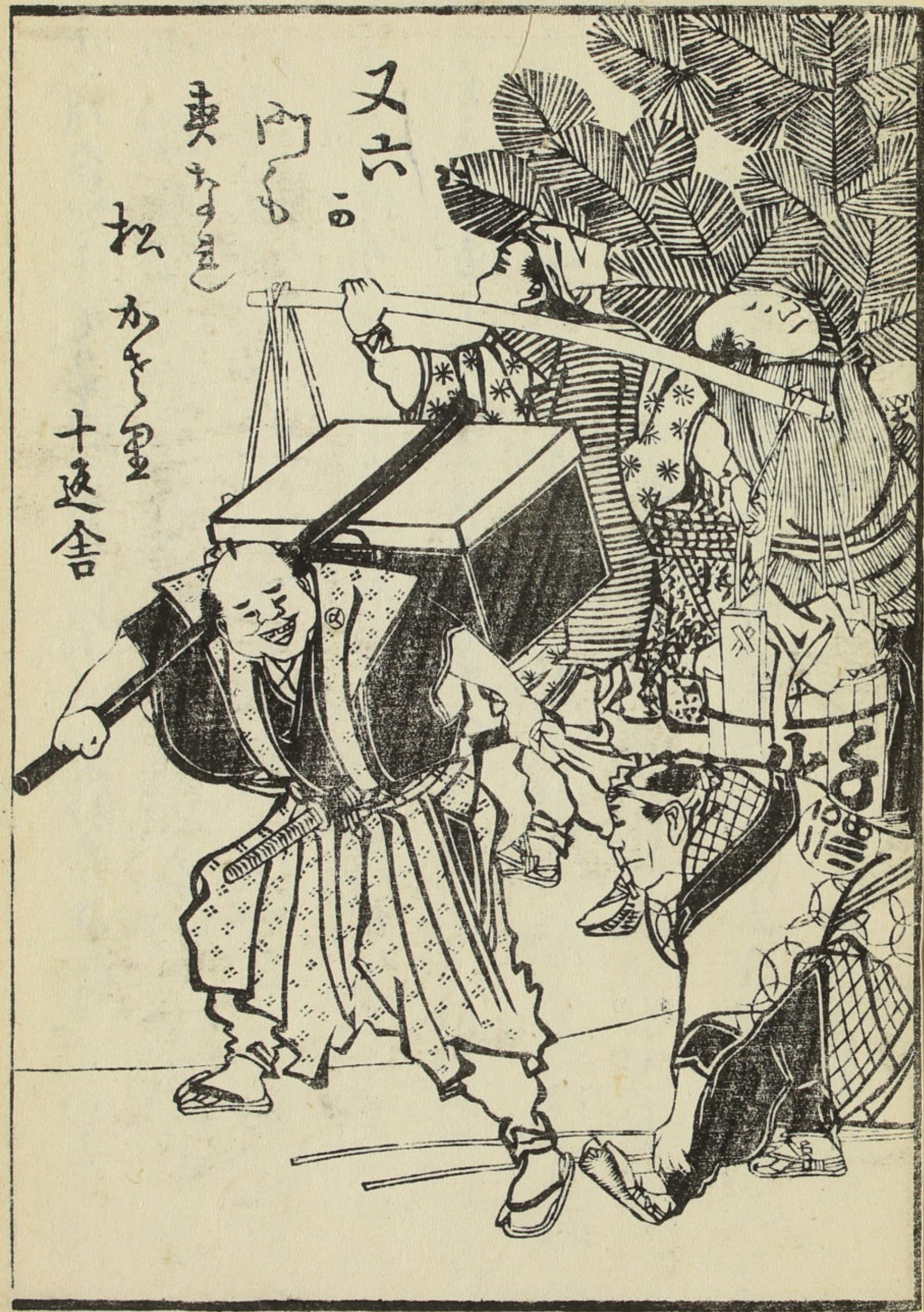
東武十返舎一九著

初日のかけ蕎麦にひきこもる子加志之の
 浮連綿長ふして松枝とあそぶ。これ若くはひふ
 及とゆかりのあつたきけの影をもち板板流みて

手残あゆませ羽根をつくをこ板板の願をたねと
 るがら振袖の尻をつめう。紙考のいと足ふがらあとも
 委細のまのたを碑とまねつけてくる下戸の首い。

尚日卦百洞の恩射によりて迷惑とくらぬるまじ。
さればまの鬼の角目ごとちて。その虎の皮の禪
とてまをころしむらぬの忽めと中りに法茶中入ます
のころ多病にいそあげふやうつりかきりゆく人のさる。
爰助藤南の酒小碑くるがどく。かの一休禪師の世茂
瓢箪の寝きたるへぬとらつり。そをさぬのあはねど。
将業師の獅子飛早に助りまの人のとていさ。いま
めつて胸の勃氣のやまされども。系瓜とも思ひずされ
ども餅蓮の大判のさかにくづれど。ま附の令焼

石に水とかりてまも残らば重づめれ小ぶみぬの
荒和布の仕立にこれども。その方のさるが。二条の
辰の欠落にひとく。まのまもて。夫婦とも思ひり
にせし。念んづるものひつらうらま。赤剣の雑煮のち
後みさのちう▲礼者「モノモウ▲志まへどまへ▲礼者「ぬらぬら
孫方「法茶中入ますトゆたすむらと又近所の
小むまめ部と人▲かこころおちさん
おめでさうござんます▲女房「イヤどまのもたまやく。
はまなぐでたす。の。かさん。かめへのねぐしのおつり
さんくへ▲こ「アイおつりさんか。そしてけぬもおつりさん



ち中の大ぶろこびをまじりか檀房に打ついで大分
秋死せられこ人があつて。大まに勝手をあそびする。
それで今年も元日より一考物の所へ移つて圓向に
糸つこのごちでるて。いゝ▲ちま「それいゝがごうござり
また私もまそのときめいのかちへ糸る所でござりまじり
将業の下移古で候我をいゝ目とひたつけて。大さ
ごをやりませ。▲かせう「それいゝうつ。コリヤ小傍も年
玉の納豆二粒出せ時にそゝてごよさあつて。▲ちま「イヤ
仕合と早速いゝがつたます。今日いけ通り。▲かせう「ハテ

のこ かね。あつと
残り多い納豆のひと箱でよめぞ。▲女房「おろろとむ
か年玉あごごうござりませ。とち年酒上げませう
▲かせう「んさあちとぞり。魚信出びけりかくのとぞり。
大生碎ぶごちる。いゝトけ内きのあちりし
めでござる。▲をま「コレいゝよくお出あさつて。時晩い
あごごうござり中。▲ちま「お出さすくあごちるりヤア。是
なうとあらめのと金貸かせませず。▲をま「ハイまの何より。
コリヤおちやんあごが又金をあそふとかつ志やる。サアくまご
あちへコレを盡せ出せぬ。▲女房「ハイ。先か市俵いゝ

ませうらう▲をまゝあんぞかきひめのもでも。コレ権七新及の番や
へいつく。何ぞあつらうとつくとつこい▲権一のそこまゝくついでに
ちねふんちねふん▲権「アイ今あつらうらめつくと来ます▲女房」をん
ゆいりく
あつ権七さん猪へ水といきて。そとへ替つけてらんみせへ
▲権「コレおにいそびくとつこい。そけ坊さぬこちやア物いなく
さつこいにまのまらあめ▲おせう「コレヤ小僧めのとあつらへられ
▲女房「イエそとでもよふあつらうをうら。お小僧さんそりして
居るさるまた。ちあつとけついでに替替とつてらんみせへ▲小僧
「コレいそんまてとあつらせぬ▲権「そんごうハアお寺さんあつら

でもこのまをまて。アレまゝに流ごり来さそまごア▲女房「た
めんありませ。例年の有歳ねをまてごごりませす▲女房
「アイくサアおあがりあつらませ▲女房「まづよへまておめで
さつごごりませす。けお若ハス〜うづりのおあつらあつらマ
どあつても別案あつて殊事にぞんどませす▲権「コレいそ
がしふハア。いあつらめんがくつら。コレあつらぬまひめめい
めあつらんづい▲女房「アイよりアをへよそつとくごせへソリヤア
扱ふまづまをそれとよをわゆるめめら▲権「ホンニコレヤアハア
十独ととつちづいア。そそいあつら。猪の中を灰づくはけお



十返舎

茶

三六

側

おや

ちや



坪

お出ま

おや



くさの▲女房「人の坊もねへ。そくまぶお着のまのら
ねへドやアねへう▲控「アイさるるアまぶまぶーの▲女房「免
の「とごまをやく緒とあうぞかけみせへ下けうち「ハイのつて
まのり中おのこやく▲控「コリヤアあんとすべの。さるるア
まらすにのそく来たつて▲女房「あつくりあんなら料理
してくまねへう▲控「アあんとするりあうまぶあのコレ
おちさぬおまへけいそがしいハア。そよして居るのよりうア
このさるるアあつくり切とこれさるる志の▲女房「拙志せつしとご
今日取けふご心。あらうは酒いよとごあつてこおつて。つむりが

あつくりのくさ入てさ出まぬりあつくりあるどや破る
うち。そさるるまうり料理して中まら。まえていちくと鹿
下もかりりくさるのまゆ▲かせうコレハお控あか女房の
おりくさの無僧も碑いしておるけえおんが。貴人のかりり無僧
女房をまひませうり▲女房「コリヤ出ままい。おあへのお
着ふようこさるりませう▲かせう「無僧もへも毎年女房の
まられらう寺の女房へ在承とあちがひませ無僧もく覚
ておる。コリヤ小僧よ。それもッレおあ志やうんまやうく見おる
女房の夜よごア、仏檀の本魚と被のつりおホクくとこは

たけ。サアものり。今やりますぞ。▲さるが「コリヤイ風流多し
出たがごよりとどく」ト け内さるが死出流者出て ▲おせう「徳者お出
可殿といがさるもさうへくまうんます」▲本魚「ボクく」▲おせう
「大痛ありらる人魂の飛くら来るあこまの太鼓火葬
の前におこまりやうべふあて。ゆくらんり鹽と持ててこひや
の念仏もどとほふとまへ極まるもまにのりく。本寺建立
にせえておまの材木寄進がみ百人瓦の総しがみ
百人お石塔中がみ百人合せて千六百人の塔方がさ
アやうとつりせおひらる」▲本魚「ボクく」▲小ぞう「ホウこれら

そろく「方丈」▲おせう「めでんおと方丈大庵さんとの勤
まるぬ。お寺さぬへ南条の庵方くら葬れが来る。葬れと
りさぶや。うけむくに後や輪子さぶつおねて終まが太
鼓の来つて」▲小ぞう「ナレく強版とナレさぶつさるらるのを食
んちやめうらざるでつこんで。殿政のひらるやさるのひら
くまべいぞ。あつらやこつと。おつこつこつこつらぶれへ」▲おせう「ア
来る」▲小ぞう「ナレ来る」▲おせう「酒が来る。酒とナレさるや湯桶
つり」▲おせう「つてそらりやとつと。おつらりの元へまつて」▲小ぞう
「酒とナレさるや。和尚さんおまたるのや。やうりナレ大庵

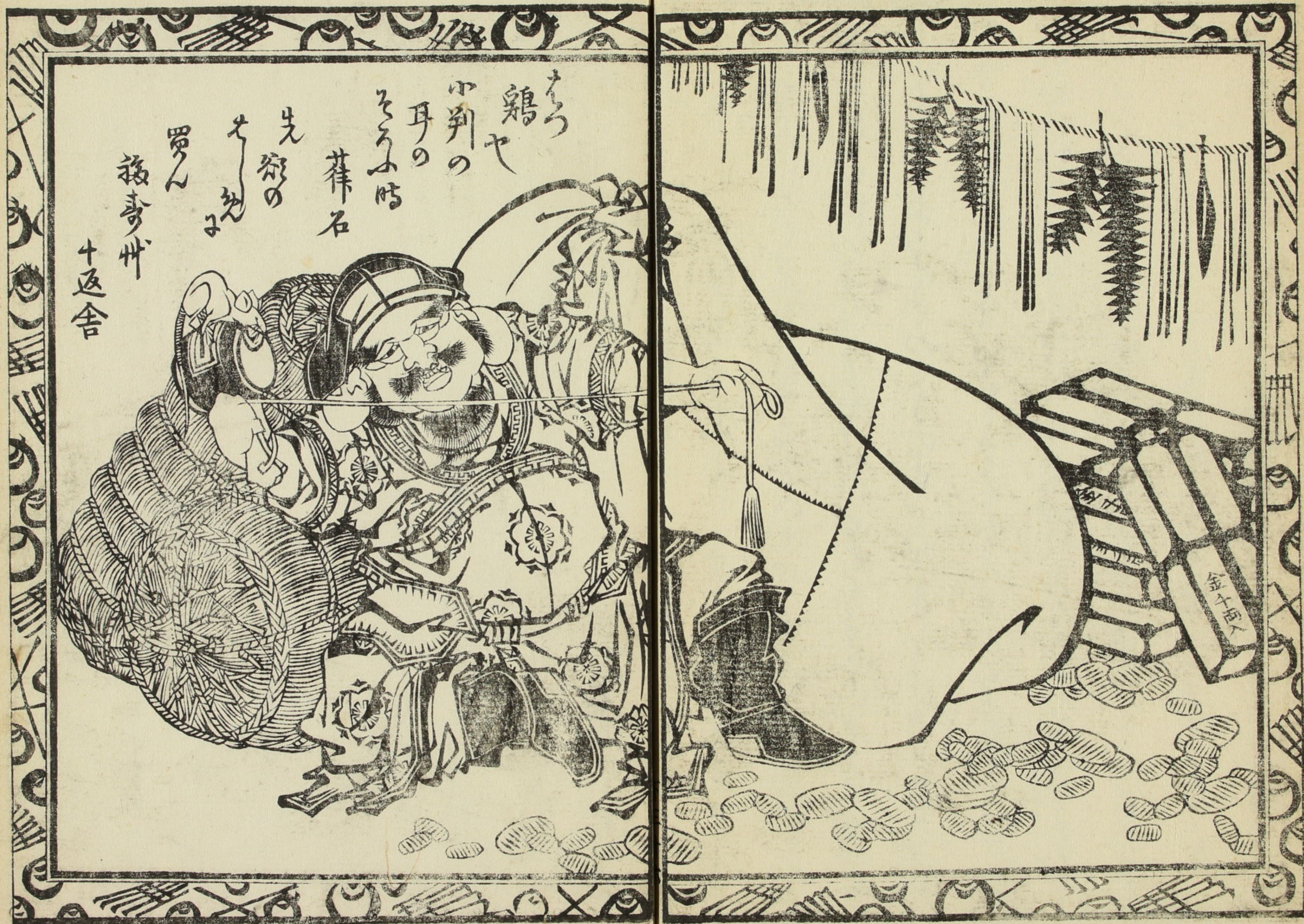
かんぞん。卵塔場の水むけ茶碗で。おたのしも湯豆腐哉
くつむさんで。めんのおんごうよりんべい。ヤリク。おせう「まじく」
系。七日のさまのりに。おたのしなが来る。▲小ごう「おたのしと
りさぶや。さたふたのさかうのさぬのなりも瘦く病身
るふで。今にてさねよう。是もふあが。あとにさのさかうめ
女のふらつてうでづんぐりしてをがまよく速者ともふぐ
おたのしりりまきうのやのさぶ。穴場の三助さんその秋
のつてぶちこめ。細さのつてさたさんで。おせうのつてまじり
やまやんとみんづけら。あらりのちやよりんべい。ヤリク

まのちやらこく。▲おせう「モくおせうさんあんなりごね
どこのくあう。そんないれまの万々があめのでござり
まそり。あんでも欲とてして税つて。ままひふ百万年の
おま令とのおねへけりやア。めでんごおごうやせん。▲おせう
「イヤお家のそふでもろふが檀方に百万年おせう
け方おせうりがあるめら。おせうごうらもへくさ万々が
そふけりう税つてあつたそふに泣こあさしておふが老例
でござるて。▲おま「おせうらもろくも。素人のうちでそふ
でつらまのやせぬコレ万々のおまさん。おせう「おせうらもろく



どふも。ぞんざいであらねん。▲スケ「チニぞんざいおまをのり
はるのていそ。おまぞんざいおまをいんしんかひのていそ。▲まいつ
「まいつまうめいそをいん。外に人があけつやアこそ。おま
のよめおりのさつまつくわ。あんまりお平らくさぶあ入
▲スケ「チンダそのちがまいつまう。▲まいつ「イヤこのおまを
めいト。あをゆめらけつとつらちおまのぬまにめつおまゆいんてい
ついでけんくいとあるおまをさぶめまらぐのんおまぞんざいおまを
よめにさるさらいでやうくおまづめおまにあらるとおまのりめ
おまゆいんていそちのちにおまいんかおまおまおまのちくまおまい
「ハイおまや。▲おまぞんざい「コリヤおまらうく。イヤやつた
らうの坊主まのあらねんぞめ。▲スケ「おまのちくまらあお入

さんぐいもまらうつておまらうまめにあつちくものおまこと
まちがふく。ありやつつやに。まらうつあつていものしうら
かつたうつつちの坊主になるおまこと。判るおまをツいこの
おまこと。あれつく。▲まらう「アニくエレ「チヤア。おまを坊主にあこ
ら。ヒヤア。コリヤ。ハイ。おまぞんざい。おまを。おまを。コレ髪
ゆいん。なぜ坊主に。いん。いん。おまおまおまおま。おま
いんおまらヤア。▲スケ「つらちが麻おまおまらヤア。おま
さんおま。おまらうつておまらうつて。おまらうつて。おま
おま。坊主にさる。おまらうつて。おまらうつて。おまらうつて。おま



たろ

鶏ヤ

小判の
耳の
そん小時

葎石

先
窓の

七
光

羅ん

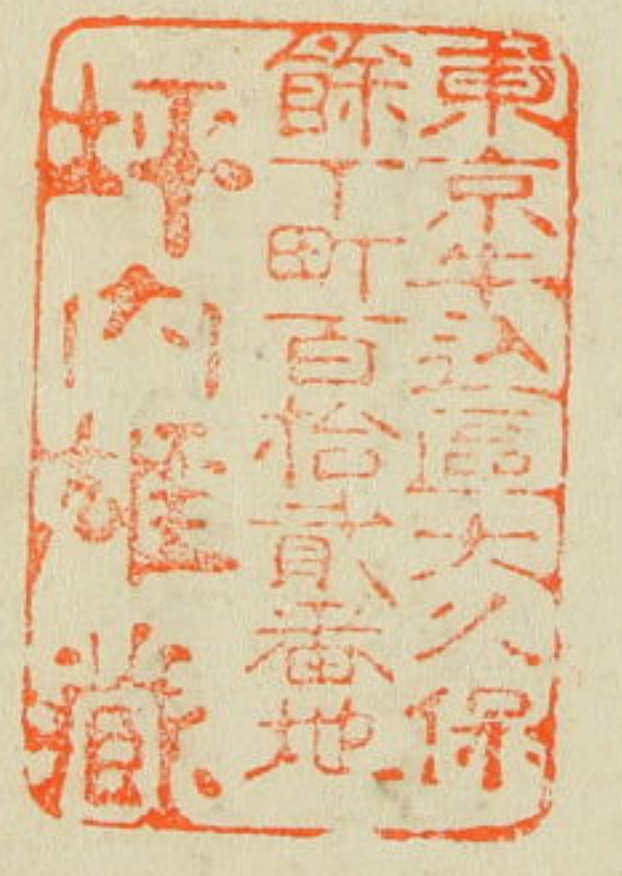
後
身
州

十
返
舎

金十返

こが。無傍むぼうハ又またをぞのま。かおのあふ天宗てんそうとぞれちがへてかへ
 ろふと〜ハ〜▲スケ「ホンニかせうさぬのおつちつ〜
 け〜ありでりすます〜。おめへさんも又。内ト自トぶんのつむ
 りにあるめとと〜にそふそ〜。か〜んあると〜のめと
 ▲かせう「イ十無傍出家むぼうしゅけしてこめく。いふ髪とゆつ〜こが
 ちが〜らぬらら。よのや無傍むぼうのあ〜ぬに。あつてありふ〜の
 ちが〜つたませみんご。▲スケ「サア〜あ〜つつけてよ〜ませう
まろがの人のあ〜ぬへつけが〜とつけてま〜か〜ところへ方丈のままわ〜う。残
 つ〜て〜ち〜う〜う〜ち〜が〜へて〜せ〜と〜び〜で〜ま〜く〜大〜日〜ひ〜と〜た〜り
 ま〜ろがの人のあ〜ぬと〜せ ▲まろが「サア〜く〜ま〜で〜ま〜の〜。コリヤ〜んあ
 ちでま〜「マ〜〜

まちがひる遠とほの元もとも。のら〜みあつ〜めぞ〜。〜もあ〜にせ
 ら〜ア〜ま〜い〜が。あ〜してア〜ア〜ア〜ふりハイ。
まろ若わかア〜のあ〜でまゆち。おま持もちがあのヤア▲まま「マアあんあ〜ろ。おま
がうを坊ぼうはお元もと日ひ坊ぼうとあんぎがよのあ芝あ居いもあと〜いまあ〜り
 ぶろひひ〜う〜つて〜▲ま〜く〜「キ〜くい後あとめて〜と〜度
 シヤ〜ンノシヤ〜ンめぞ〜〜



滑稽言二日醉下編尾

一 盃 綺 言 式亭三馬作 壹冊

忠臣藏編 癩氣論 同 他 壹冊

田舎芝居 忠臣藏 同 他 初編貳冊 貳編貳冊 壹冊

狂言田舎探 同 他 貳冊

行麻疹社浮言 同 他 壹冊

廓 薙 用 同 他 壹冊

辰巳婦言 同 他 壹冊

同 叙頭深松 編 同 他 壹冊

書 京傳餘師 山東京傳作 壹冊

傾 城 觸 同 他 壹冊

小紋雅話 同 他 壹冊

契情買虎乃卷 同 他 壹冊

青襟 和袴 新造圖彙 同 他 壹冊

七 指 面 靴 心 同 他 壹冊

手之たの 信方 娼妓結ぶ心 同 他 壹冊

酒房 奴侍 志げく平話 同 他 壹冊

夜半花葉積 同 他 壹冊

春様 錦乃裏 の世景 同 他 壹冊

陸奥青森	池田吉助	信州松本	高見屋甚左三門
同 弘前	平井客次郎	越後長岡	上田屋治八
同 東金	武田莊七	同	鳥屋十郎
同 八戸	玉田平治郎	同 小千谷	中村作平
羽後秋田	浦山太郎兵衛	同 高田	小林屋定吉
羽前山形	本間金之助	同 高田	室直三郎
同	市村五郎兵衛	同 越中富山	本田勝太郎
同	荒井多四郎	同	大橋甚吾
同 谷地	八文字屋太左三門	同 高岡	土井宇三郎
同 鶴岡	田宮五郎	同	車平二郎
同 上山	地主文藏	同 高岡	水野義三郎
信州長野	萬屋利七	同 福光	清水清左三門
同 上田	西澤喜太郎	加州金澤	中村喜平
同 小諸	池田政教	同	近田太平
同	小山九郎兵衛	同	池善平
同	相場七左三門	同	近 八右三門
同	釜屋儀助	同 大聖寺	深城伊三郎

